

	西暦	元号	玉川上水関連	備考
一、玉川上水開削初期	1590	天正18	8月徳川家康江戸に入る 10月大久保藤五郎小石川上水(後の神田上水)開削・完成	9月街割で日本橋本町出来る
	1603	慶長 8	3月徳川家康征夷大將軍 幕府を開く	日本橋架橋
	1604	慶長 9	江戸城大改修始まる	日本橋を五街道の基点とする
	1629	寛永 6	神田上水完成	2月水戸頼房小石川に後樂園造営
	1635	寛永12	家光 参勤交代を制度化 以後江戸の人口急増	1月25日地震
	1652	承応元	玉川兄弟に新たな上水道開削の調査を命じる	6月若衆歌舞伎禁止
	1653	承応 2	1月玉川上水開削を正式に決定 惣奉行松平伊豆守信綱 玉川上水奉行伊奈半十郎と玉川兄弟に工事請負方を命じる 4月4日玉川上水工事着工 11月15日羽村～四谷大木戸間竣工(43km平均幅約3.6m) 給水開始	
	1654	承応 3	6月主要導管工事完成(江戸城及び中南西部一帯給水開始) 庄右衛門・清右衛門苗字(玉川)帯刀許され、上水役命じられる 玉川兄弟の勧請により「水神社」建設される	
	1655	明暦元	3月松平伊豆守信綱家臣安松金右衛門、玉川上水最初の分水、野火止用水を開削	11月町方の塵芥の川への投棄禁止。
	1656	明暦 2	小川九郎兵衛、小川村開拓を出願	7月隅田川の舟遊びについての規制が行われる
	1657	明暦 3	1月明暦の大火(振袖火事) 江戸2/3消失 小川村分水、砂川村分水、国分寺村分水開設	8月遊郭:吉原を浅草千束に移す
	1659	万治 2	玉川上水から分水し亀有(本所)上水開設口 玉川兄弟 利用者から水銀(水銭)・水料徴収許される	12月両国橋完成
	1660	万治 3	青山上水開設(青山、赤坂、麻布、芝方面へ給水)	本所村の田地収公進む
	1664	寛文 4	三田上水開設 (隅田川以西の南部市街地の給水)	9月町々の塵芥運搬賃値上げ。
	1666	寛文 6	神田・玉川上水を管掌する上水奉行設置	5月隅田川氾濫
	1667	寛文 7	神田上水に玉川上水の水を引き入れる	5月墮胎禁止
	1669	寛文 9	品川上水開設	本所一円が町屋になる。
	1670	寛文10	5月玉川上水3間幅(5.5m)に拡幅 両岸に堤を築き松や杉を植栽	8月24日本所、深川出水。
	1675	延宝3	松尾芭蕉、神田上水の工事にたずさわる	2月大飢饉御救小屋立てる
	1696	元禄 9	千川上水竣工(保谷、本郷、下谷、浅草方面給水) 田無分水開設	9月両国橋改架完成
			江戸の人口100万人を突破	
	1704	宝永元	田村分水開設	7月利根川決壊
	1716	享保元	徳川吉宗が将軍となり、享保の改革に着手	7月疫病大流行

二、新田開発に伴う分水の増加期間	1720	享保 5	殿ヶ谷新田分水(現立川市西砂地区)開設 分水数15	9月飛鳥山に桜の苗木を植える
	1722	享保 7	7月新田開発奨励 10月維持困難を理由(明暦の大火以来水道が火災を誘発するとの建議が成立)に本所・三田・青山・千川上水を廃止(儒者荻生徂徠が「市中に火事が頻発に起こるのは上水が市中に張り巡らされこれがため地下水が下がり土地が乾燥しているからだ」と将軍に献言)その後農業用水となる 掘りぬき井戸の技術発達があったから(8代将軍吉宗時代)	深川門前町が賑わう
	1724	享保 9	三田上水、沿線農民の嘆願により灌漑用水として復活 原宿村分水開設	2月物価引下令が発令
	1728	享保13	野中新田分水開設	9月江戸で大風雨で洪水-諸橋落失
	1729	享保14	中藤新田分水 榎戸新田分水開設	3月両国橋、新大橋修復工事完了
	1732	享保17	平兵衛新田分水開設	全国的飢饉で疫病流行
	1734	享保19	鈴木新田分水開設 梶野新田分水開設	6月17日大雨で両国橋仮橋が流出
	1737	元文 2	府中押立村名主川崎平右衛門の肝煎りで、玉川上水の堤に約6km(小金井堤)に桜1000本を植樹 柴崎村分水開設	2月本所で寛永通宝銭の鑄造を始める
	1739	元文 4	9月三代目玉川庄右衛門・清右衛門 賄賂その他不正の嫌疑で上水請負人を罷免 10月玉川上水管理のため見回り役設置	火事:1月19日-佃島で殆んど全戸焼失
	1740	元文 5	7月上水路堤防とところどころ欠損のため、福生村に新水路開削し、水路付け替え工事をする	3月市中の豊屋・豊刺の人別調査
	1745	延享 2	牟礼村分水を開設	六道の火事:2月12日-青山六道辻から出火
	1764	明和元	大沼田新田分水を開設	日本橋小網町に海苔の「山形屋」開業
	1775	安永 4	下高井戸分水を開設	5月両国橋改架工事が竣工
	1779	安永 8	千川上水、住民の願いにより復活	3月伊豆大島三原山で大噴火
	1786	天明 6	千川上水再度廃止	諸国で飢饉発生
	1791	寛政 3	普請奉行上水方道方石野遠江守広道 3年がかりで「上水記」全10巻を完成 (橋梁数82)	8月6~8日 暴風雨・津波
	1804	文化元	桜並木新橋の南岸から梶野橋、小金井橋に至る 上流は貫井橋、喜平橋まで	駒形どぜう・越後屋創業
	1826	文政 9	江戸人口150万人	3月オランダ商館医シーボルトが江戸到着
1844	天保14	徳川家定の観桜に伴い、田無村名主下田半兵衛らサクラの補植 鈴木村分水、鈴木新田分水、梶野新田分水開設	12月 寄席が自由化される	
1868	明治元	6月神田・玉川上水を新設の市制裁判所の所管とする 8月東京府開設 神田・玉川上水もその所管とする	4月11日江戸城開城 5月15日上野戦争 7月江戸を東京と改称	
三、	1869	明治 2	砂川源五右衛門玉川上水の通船銭願い提出	2月東京を朱引内と朱引外に分ける
	1870	明治 3	1月門訴事件 3月通船に備え、羽村の水門を閉鎖し、砂川村から内藤新宿のほとんどの村で水路を拡張する	火事:12月16日-神田元岩井町から出火 12月両国橋など市内11ヶ所に「書状郵便所」を設置

通船事業の 実施期間	1872	明治5	4月通船許可(羽村～内藤新宿) 船留ができる 引船の板道、引船道が整備される 5月玉川上水 小川橋上流の左岸7つの分水口を統合するため新堀用水を開設 柴崎村から境村まで南側11分水口が現砂川用水に統合される 5月玉川上水水質汚染のため通船禁止	12月3日 太陽暦採用
四、近代水道への移行期①	1874 1882 1883 1886 1888 1890 1893 1894 1898 1899	明治7 明治15 明治16 明治19 明治21 明治23 明治26 明治27 明治31 明治32	5月近代水道事業を発足させるためオランダ技師ファン・ドールトンに改良水道について諮問口 12月羽村堰水門石造りに改造 明治天皇の観桜に伴い、花の名所としての評判が高まる 7月コレラ大流行(患者12171人 死者9879人)改良水道事業促進の動機となる 東京府による玉川上水敷地調査実施、上水の汚濁の実態を報告 2月水道条例発布口 7月東京府の水道改良設計許可 10月多摩3郡神奈川から東京府に移管 改良水道事業 東京市の経営となる 四谷大木戸、代々木、代田、久我山、境、小川、砂川、熊川に水衛所が設置される 羽村の派出所設置 淀橋浄水場から神田・日本橋方面に通水が開始される 12月淀橋浄水場竣工(代田橋～淀橋への新水路) 桜樹の衰え見え始める	1月八重洲二丁目に東京警視庁設置 10月東京専門学校(現早稲田大学)開校 1月築地居留地37番に「立教大学校創立 11月神田旅籠町に伊勢丹呉服店開店 7月大阪朝日新聞が「東京朝日新聞」発刊 9月日本法律学校(現日本大学)開校 11月日本橋に明治座が開場 9月対清国宣戦布告 7月浅草橋改架工事成る 1月勝海舟(77)卒
五、近代水道への移行期②	1901 1907 1908 1910 1913 1914 1916 1921 1922 1924	明治34 明治40 明治41 明治43 大正2 大正3 大正5 大正10 大正11 大正13	東京近代水道完成 旧上水道(神田上水・玉川上水)の市内給水が廃止される この当時の給水人口101万人 残堀川の改修工事に伴い水路橋が架橋される 「玉川上水路実測平面図」都水道局 水道用地確定して境界石を設置 植物学者三好学による桜の保護運動が始まる 小金井サクラ東京市公園課による補植、施肥、外科手術等の保護事業 東京市が「第一水道拡張事業計画」発表 小平・小金井両村有志により、キリシマツツジを植樹する 村山貯水池着工 羽村堰が改造される 改造に伴い水神社が現在の位置に移築される 11月村山貯水池上堤竣工 2月村山・境線の通水開始 3月境・和田堀線の通水開始 8月和田堀給水所が竣工 村山貯水池、境浄水場、和田堀給水所が一連の施設として稼動する	2月福沢諭吉(68)卒 1月東京株式相場が暴落 11月日比谷図書館が開館 12月南極探検の白瀬大尉芝浦を出港 8月神田に岩波書店が開業 5月白鬚橋(木製)創架 12月夏目漱石(50)卒 8月深川越中島地先の埋立工事完了 1月砂町で運河開削工事開始 10月岩淵水門竣工、荒川放水路通水

移行期 ②		12月東京市 小金井(サクラ)を史跡名勝に指定		
	1925	大正14	「名勝小金井桜」指定標示碑が小金井橋畔に建立 「名勝境界石」が設置される	7月東京放送局芝愛宕山より本放送開始
	1927	昭和2	村山貯水池完成	6月駒形橋架橋
	1928	昭和3	山口貯水池着工	2月言問橋架橋
	1932	昭和7	東京市が「第二次水道拡張計画」を発表	4月両国橋改架工事竣工
	1934	昭和9	山口貯水池完成	3月尾竹橋竣工
	1936	昭和11	花見の賑わい下火となる。戦中・戦後は桜の管理が放漫となり、老木の枯死が進む	2月皇道派青年将校らが挙兵
	1938	昭和13	小河内貯水池工事着工	7月両国川開き大花火、時局に鑑み中止
	1944	昭和19	埼玉県 野火止用水を史跡指定	11月24日米軍機B-29 約70機、東京初空襲
	1948	昭和23	小河内貯水池建設工事再開	8月両国川開き復活(11年ぶり)
	1953	昭和28	玉川上水の一部区間が都立羽村草花丘陵自然公園に指定	街頭テレビが人気を集める
	1954	昭和29	五日市街道拡幅により小金井堤のサクラ 大幅に剪定伐採	6月曳船川埋立工事着工
六、 導水機能 の縮小 期間	1957	昭和32	小河内貯水池竣工	12月深川沖のゴミ埋立開始(夢の島)。
	1960	昭和35	東村山浄水場 一部通水開始	5月浅草雷門建立(95年ぶり再興)。
	1961	昭和36	猛暑 深井戸水位低下 水源不足問題深刻化	9月15日第2室戸台風。
	1963	昭和38	残堀川交差部にサイホン式導水が採用	3月辰巳水門竣工。中川放水路完成
			9月小平監視所設置 玉川上水の一部区間風致地区に指定 歩行者用安全柵ができる	
	1965	昭和40	3月淀橋浄水場廃止、(東村山浄水場に機能が移る) この結果、玉川上水の機能は羽村取水口から小平監視所までとなる 下流は空堀 暗渠化 利根川からの給水開始	9月都下水道局尾久ポンプ場完成
	1966	昭和41	武蔵野市民「玉川上水を守る会」発足	4月銀座にソニービル完成
	1968	昭和43	都「玉川上水史跡指定に関する連絡協議会」を設置	5月尾久橋竣工
	1970	昭和45	都議会「玉川上水を守る会」の清流復活の陳情採択	8月銀座・浅草などで日曜日の歩行者天国実施
	1972	昭和47	3月玉川上水から野火止用水への通水停止 6月「平林寺の自然と文化を守る会」野火止用水を歴史環境保全地域指定と、用水確保の要望書を都に提出 7月「小平市玉川上水を守る会」発足	7月15日国鉄東京地下駅完成
	1974	昭和49	12月野火止用水歴史環境保全地域指定	4月東京国立博物館でモナリザ展開催
	1976	昭和51	小金井橋～梶野橋間の堤にアジサイ700株植栽	10月1日 国鉄総武線の東京～品川間地下線開通。
1980	昭和55	2月清流復活事業により野火止用水に1日1万t を試験通水 3月和田堀(旧代田)、久我山、境水衛所閉鎖。熊川、砂川水衛所を小平に統合し小平監視所となる	校内暴力・家庭内暴力が急増	
1982	昭和57	都長期計画(マイタウン東京構想) 玉川・野火止・千川上水に下水処理水を利用して清流復活事業を計画	3月上野動物園で創立100周年記念	

	1983	昭和58	都玉川上水ベりの文化財調査 水路補修工事着手	4月15日 浦安市に東京ディズニーランドがオープン
七、清流復活事業 ～現在	1984	昭和59	野火止用水清流復活(約1～2万t)	10月有楽町日劇跡にマリオン開業
	1986	昭和61	8月玉川上水清流復活(約8000t～13000t) 21年間の枯れ川解消	11月15日伊豆大島三原山が209年ぶりに噴火
	1989	平成元	千川上水清流復活 都建設局「玉川上水橋梁群修景基本計画調査」	
	1995	平成7	「名勝小金井(サクラ)現況調査報告書」(都教育委員会) 「玉川上水現況調査報告書」(都教育委員会)	
	1997	平成9	「玉川上水保存管理指針」が答申される 都環境局により「玉川上水の緑の保全計画」が検討される(委託)	
	1999	平成11	宮本橋(福生市)～下流の開渠部分 都歴史環境保全地域指定	
	2000	平成12	2月小平ユネスコ協会発足 小平ユネスコ協会「玉川上水を世界遺産に」との運動を開始	
	2003	平成15	8月玉川上水が国の史跡に指定される	
	2005	平成17	7月玉川上水保存管理計画に関する委員会設置	

小平ユネスコ協会編集 *東京都水道局資料参考